芳工連だより

'17／12
第162号

□ 発行 芳賀町工業団地連絡協議会　□ 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台 98　□TEL 028(677)5033
□ http://www.hokoren.com　□ E－Mail : information@hokoren.com　□編集責任者 七井 真人

■初級管理者セミナーを開催

総務企画部会は１１月２１日、初級管理者セミナーを開催しました。

『部下をやる気にさせる上司力向上』をテーマとしたセミナーに６社から課長などの管理職１２名が受講しました。

開会式で総務企画部会中山部会長は「我々企業を取り巻く経営環境は、法令順守への強いこだわりに加え、産業構造や消費者の嗜好の変化を敏感に捉え、柔軟な発想で経営を変えていくことが求められる時代と考えます。本日は管理者として役立つ情報、知識を学ぶことができると思いますので、今日学んだことをしっかりと持ち帰って、業務に活かしていただくよう期待しています」と挨拶しました。

セミナーでは、リーダーとしての役割、プロセスマネジメントの理解、部下へのアプローチ術などについて、討議実習を含め様々な視点から気づきを促しました。

受講後のアンケートには、「部署内のコミュニケーション活性に努めたい」、「会社の理念を再確認して広い視野をもって仕事に臨みます」、「後輩に分かりやすい説明を心掛けます」などの気づきや決意が記述されていました。

このセミナーを機会に、折衝力、管理能力などのスキルを高め、管理者として御活躍されることを願っています。

■ 環境整備部会がパンジー植え

１１月２０日開催した第 2 回環境整備部会に、１３社から１３名のメンバーのご出席をいただきました。会議に先立ち、ひばりが丘公園の花壇にパンジーの苗を植えましたが、隣接企業の応援参加もあって早々に植付けが完了しました。

黄色やピンクの可憐なパンジーの花は、寒さ厳しいこれからの時季に来園者の目を楽しませてくれることと思います。

正副部会長と事務局は工業団地の外周道路を中心に環境パトロールを実施しました。雑木が伸び放題で障害となっていた未利用地が以前は見られましたが、行政からの指導もあって良好な管理状況となっていることを確認しました。

会議において、半田部会長は「早いもので上半

期が終わり予定した事業は無事執行できました。皆さまの御協力に感謝します。下半期も皆さまのご協力をいただき滞りなく事業を執行したいので、よろしくお願いします」と挨拶しました。

協議事項である環境整備部会及び安全衛生部会合同研修会については、研修先を第１回部会で協議しましたが変更が必要となり、２月に茨城県鹿嶋市の新日鐵住金鹿島製鐵所への研修を決定しました。また、事務局から今後予定される各部会の事業日程をご説明して参加をお願いしました。

■ 安全運転講習会を開催

交通防犯部会は１１月２日に安全運転講習会を開催しました。１時間３０分間コースの講習を２回開催したところ、社内で安全運転を指導する立場の方を含め１９社から３４名が受講しました。講師はツインリンクもてぎのインストラクターにお願いしました。

講師から、「今年になって８月末までに全国で２，２９８人、栃木県で５７人が交通事故で死亡しています。全国的には交通事故による死亡者数は減少傾向にありますが、栃木県では増加しています。動画による運転中の危険を体験し、自ら安全運転に対する意識を高めていただくことで、各自の安全運転や社内の交通安全指導に活かしていただきたい」と挨拶がありました。

道路上の危険予知能力は、子供のときからの体験・環境によって違いができる。スポーツと同様にトレーニングの継続によって交通安全のスキルに大きな違いが出来る、というお話は興味深い内容でした。

交通事故による死亡者の年齢は、６５歳以上が全体の７０％を占め、交差点及び交差点付近の交通事故が多いそうです。時間帯は６時から８時と１８時から２０時の時間帯に集中しています。このような危険要素を認識したうえで、運転する際は歩行者の行動を予測する必要があります。

今回のトレーニングは動画ＫＹＴという教材です。実際の交通状況を再現した動画を見ながら危険を予測し、結果を受講者同士が振り返って議論することで安全を学ぶ教育機器です。コンピューターグラフィックによる動画を見ながら、危険を感じた場面で手元のボタンを押し、危険予測を行います。その後、ボタンを押した時点を記録したデータをスクリーンに表示し、「どのような危険を感じたのか」などのディスカッションを受講者同士で行うことで、二輪車や四輪車を運転する際の安全を学びます。

危険を感知するタイミングや危険予知の捉え方に個人差が大きいことに気づきました。体験して初めて自分の危険予知能力が少し劣ることを認識できました。ウインカーを点滅させる時期、交差点に潜む危険の見落としなどに気付きました。

受講者から「我が社でも、より多くの社員に受講してもらいたいと感じた」などの声を聞きました。一度受講されることをお勧めいたします。

運転しているとき、何かが出てくるかもしれないと、注意を先に向け、危険を予知することが大切になります。このようなトレーニングを継続して、安全運転に対する気づきの不足を再認識するきっかけとしていただければ有難い限りです。

■ 全体研修会を開催

総務企画部会では１１月１７日に全体研修会を開催しました。この研修は会員企業の皆さまが製造業やサービス業の先進事業所を視察研修することで、異業種の戦略やサービスの実態を体感し、各企業における事業の参考とするものです。併せて会員企業相互の交流と親睦を図ることを目的としています。

１８社２４名の参加者が最初に向かったのは福島県本宮市のアサヒビール福島工場です。アサヒスーパードライを主力に生産する工場です。

ビールの製造工程やミニ知識を順番に案内してくれました。発酵・熟成・ろ過の様子は映像で紹介してもらいました。見学の後は待望の工場できたてビールの試飲です。

アサヒグループは事業のグローバル化を加速させ、19 カ国でビールを中心にニッカウヰスキーなどの酒類、カルピスなどの飲料および食品事業を展開しています。経営理念は「世界の人々の健康で豊かな社会の実現に貢献する」を掲げています。

研究開発の領域は酒類、飲料および食品の商品開発にとどまらず、事業の未来を創る基盤技術の探索や食の安全を支える分析技術の開発、さらに、持続可能な社会を実現するための環境負荷の少ない生産技術、容器の開発や農畜産業の支援につながる素材開発も推進していることを知ることができました。

次の訪問先は、昨年度の旅行代理店のプロが選ぶ「日本のホテル・旅館１００選」で総合１位となったホテルです。おもてなし、料理、施設、企画を実体験しようと福島県石川町の母畑温泉にある八幡屋を訪ねました。

八溝山地の懐深く雑木林に囲まれたこのホテルは、古くからアルカリ性単純泉の効能が有名な温泉で、明治 13 年湯治旅館として創業したそうです。施設は延べ床面積 23,327 ㎡（7,069 坪）145 室、収容 800 名の鉄筋 8 階建てです。吹抜けの純和風をイメージする建物は落ち着きのある豪華な印象でした。

お客様一人ひとりに「心からの満足」を与える接客が行き届き、好印象を与えてくれています。食事も満足できる料理を提供してくれています。

近隣に観光名所らしき施設もなく、ありふれた田舎の景色ですが、多くのお客様を呼べる温泉として維持できていることに驚きました。

最後の研修先は、あぶくま洞の見学です。昭和 44 年に石灰石の採石中に発見された鍾乳洞ですが、神秘に満ちた地底の空間を探検する貴重な経験をすることができました。

今回の参加者は、初顔合わせのメンバーもおいでになりましたが、和やかな雰囲気のなかで情報交換をして親睦を深めることができました。今後の芳工連活動の円滑な推進に役立つ有意義な全体研修会となりました。

■第５５回ゴルフ大会開催

１１月２５日、総務企画部会主催の第５５回ゴルフ大会をロイヤルメドウゴルフ倶楽部において１６社３４名の参加により盛大に開催することができました。

朝の冷え込みは厳しかったのですが、日中は穏やかな小春日和となりました。紅葉に染まるコナラやモミジが見頃のコースで存分にプレーできました。

表彰式で芳工連会長河合様は「快晴で風もなくスコアーを言い訳できない絶好のゴルフ日和でした。普段はお話しできない方々と会話を楽しみながら親睦を深めることができました。今後も芳工連各部会の事業に積極的にご参加いただくようお願いします」と挨拶しました。

優勝は三菱ＵＦＪ信託銀行の手塚歩様（写真右上）、準優勝は（株）今仙電機製作所の藤田善久様、３位は三菱ＵＦＪ信託銀行の久志幸信様でした。

優勝された手塚様は「優勝することができ嬉しいです。芳工連のゴルフ大会には今後も積極的に参加します」と満面の笑みで語りました。

今回も山王テック（株）様、（株）ベストロジ栃木様、（株）ホンダテクノフォート様、本田技研工業（株）生産本部栃木オフィス様、協永堂印刷（株）様、（株）宮崎工作所様、（株）今仙電機製作所様、エヌケイエンジニアリング（株）様、（株）オートテクニックジャパン様、（株）伊藤商会様から豪華賞品をご提供いただきました。誠に有難うございます。

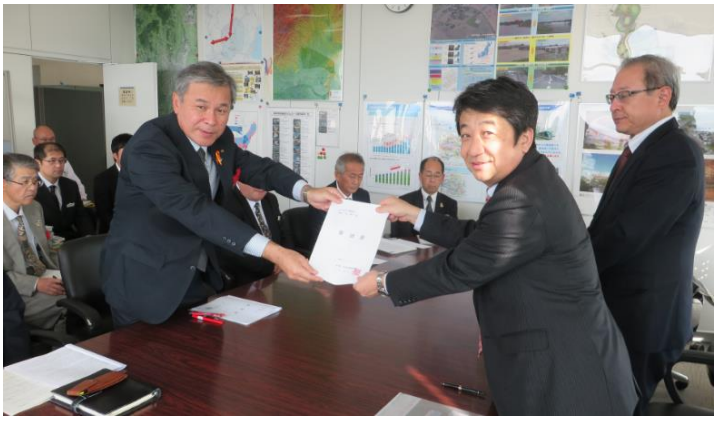
■ 県県土整備部長へ要望書提出

河合会長、富永副会長とともに事務局長七井は 11 月 2 日、県県土整備部長へ道路整備に関する要望書を提出しました。

河合会長は「ＬＲＴ事業の工事着手の見通しが具体化してきていることから、懸念される交通渋滞対策に関する道路整備の促進をお願いしたい」と挨拶しました。

県県土整備部江連部長は「この地区の交通渋滞対策については、予算が限られているなかで目に見える結果として表れていないかもしれませんが、着実に一歩一歩推進しているところです。ご要望があったそれぞれの工区の工事推進については、ＬＲＴ通過までに交通渋滞の懸念を払拭できるよう努力していきます」などと挨拶しました。

道路整備促進の要望路線は次の６路線です。それぞれ部長並びに道路課長から、次のように丁寧なご説明をいただきました。



１）主要地方道 宇都宮・向田線　大塚工区の交通円滑化については、平成１７年度に事業着手したが、今年 8 月に用地取得が完了したので平成 31 年春の開通を予定しています。大塚工区が宇都宮テクノ街道と接続する芳賀台北交差点部は、

円滑な交通の流れを確保できるよう宇都宮テクノ街道から大塚工区への進入は左折 2 車線、大塚工区から宇都宮テクノ街道への進入も右折２車線とします。

２）主要地方道宇都宮・向田線平出板戸工区の交通円滑化については、平成 20 年 3 月に県道下岡本上三川線から芳賀台北交差点まで 4，７ｋｍが供用開始、その後、平成 25 年に市道 312 号線まで 0.9Ｋｍが供用開始されました。現在は新 4 号国道まで 0.6ｋｍ区間が残っているが、ＬＲＴ事業への影響を考慮して２年前倒し平成 31 年春までに開通させます。
　整備中の道路が新４号国道付近の現道に接続する交差点部は、交通の流れが円滑となるよう平出板戸工区を４車線の幹線として完成させた上で、既存市道を十字交差させ信号機の連動で交通渋滞を回避させます。

３）宇都宮・高根沢バイパスの整備促進については、平成 21 年度から事業を実施し、平成 29 年２月に県道那須烏山線から板戸地内が暫定２車線で２，７ｋｍが開通。残り板戸地内から野高谷交差点までの２，６㎞は暫定２車線で平成 31 年春の開通を予定しています。

４）真岡・宇都宮バイパスの整備促進については、平成 33 年春の完全 4 車線化に向けて清原大地高架橋から国道 123 号までの工事を発注したところです。宇都宮市道みずほの通りも平成 33 年春に開通する計画になっています。

５）県道上高根沢・氏家線の廻り谷地区の道路新設の促進については、平成 25 年度から交付金を導入して事業を実施。昨年度は用地買収にあわせ一部工事を実施したところです。今年度は事業費の約７割となる用地買収補償を推進します。

６）宇都宮テクノ街道の 4 車線化については、新 4 号国道まで残り 0.6ｋｍ区間が平成 31 年春の供用開始を目指して工事を進めています。全線 4 車線化については暫定 2 車線を開通させた上で検討することになります。

※ 路線の位置は 2017 年 10 月発行の芳工連だより第 160 号の６ページを参照ください。

　河合会長は「ＬＲＴ事業に関する交通渋滞回避に向けた道路整備の見通しは理解できましたが、問題となるのは車線が減少する西進 1 車線区間の渋滞だと思います。この区間の交通渋滞に関しては、実証実験を実施することで課題の検証が必要と思う」と提案しました。
　県県土整備部江連部長は「平成 31 年春に関係する道路が開通となった段階であれば検討できると思いますが、現段階では混乱をきたす可能性があります。ＬＲＴ軌道敷設に係る用地確保のスケジュールが確定した段階で実証実験についてご相談させていただきます」と回答しました。

■ 芳賀町商工会と芳工連との交流会開催

　１１月３０日に芳賀町商工会と芳工連の交流会を商工会１６名、芳工連２０名の参加により開催しました。地域経済の振興と相互の発展に寄与することを目的に、会員が一堂に会し研修及び懇談等による交流会を毎年開催しています。
　今年度は、第１部で宅地造成事業の現地調査及び事業概要等に関する研修を町都市計画課のご協力で実施しました。

先ず、旧芳賀高校跡に芳賀町が宅地造成する芳賀町東部住宅団地の工事現場を視察しました。小雨の降る悪天候でしたのでバス車中から、工事丁張が整列し重機による作業が進捗している整地状況を見学しました。

道の駅はが会議室に場所を移し、町都市計画課担当者から事業概要の説明がありました。住宅団地『祖陽が丘』は平成１８年閉校となった芳賀高校跡地約５ヘクタールで造成中です。

区画の平均面積は７０坪から８０坪、全体で１２４区画となります。平成２９年度は南側半分を整備し、造成される６５区画を平成３１年当初に分譲開始する予定とのことです。自然豊かで見晴らしがよく、バイパスに隣接し商業施設に近いなどの利便性の高い優良住宅となります。また、求めやすい分譲価格となる見込みであることから、工業団地従業員の皆さまにも分譲をＰＲしたいと担当者が説明していました。

第２部の懇親会は、上野哲男副町長や石川保町議会議長など来賓をお迎えし、芳賀温泉ロマンの湯で総勢３５名の参加により開催されました。

懇親会に先立ち、ホンダエンジニアリング㈱男子ソフトボール部の浜口辰也監督ほかコーチなど５名の代表者が来場され、監督から今年度の詳しい活動報告がありました。

国民体育大会では昨年の岩手大会に続いて今年の愛媛大会を２連覇、実業団選手権、全日本総合選手権、東日本リーグなどでの輝かしい戦績をご報告いただきました。今期の活躍を讃えるとともに次期の躍進を祈念する大きな拍手が会場に響きました。

小林信二商工会副会長の乾杯発声があり、和やかな雰囲気で懇談が始まりました。初対面のメンバーが多く、名刺交換やら情報交換の時間を経て宴席が盛り上がりました。

ほどよいアルコールも手伝って、会場内は終始笑いの尽きない楽しい雰囲気に包まれていました。予定の時間で、芳工連富永英夫副会長が中締めを務め有意義な交流会はお開きとなりました。

■ 真岡地区産業安全衛生大会開催

真岡労働基準協会が主催する真岡地区産業安全衛生大会が１１月２９日に真岡市内で開催されました。この大会は真岡労働基準監督署のご指導の下、労働安全衛生の更なる推進を図ることを目的として開催されています。

真岡労働基準協会長　中村卓也　日産自動車栃木工場長は、「年末に向けて労働災害の発生が増加する傾向がありますので、この時期に開催することで安全に対する決意を新たにできればと思います。真岡管内の労働災害の発生状況に触れてみますと、先月 10 月までに休業４日以上の労働災害件数は 126 件発生し前年同期と比較して５件増加、死亡災害も前年同期と比較して１件増加し２件発生しています。

これらの背景として、労働人口の高齢化、急速な世代交代による現場力の低下、若年層の危険認

識の希薄化、雇用形態の多様化などにともない、安全衛生活動が一部低下している面があると言われています。このような時だからこそ、如何に安全な職場環境を構築できるか、さらには、人を大切にして安全を最優先に考えた企業経営ができるかが求められます。経営トップの強いリーダーシップのもと、安全と健康を守る現場力の強化を柱とし、自主的な安全衛生活動の充実強化に最大限の努力をすることが大切です。本大会を機に、いま一度労働災害防止の重要性を再確認され、真岡管内の災害をゼロとするため、なお一層の災害防止の取組みについて、皆さまのご尽力をお願いします」と挨拶しました。

大会の主唱者である真岡労働基準監督署 野澤卓也署長は、「今年管内で発生している休業 4 日以上の労働災害を見てみますと、最も多いのが墜落・転落の 27 件（全体に占める割合は 21%）次いで転倒災害 23 件（18%）です。墜落・転落災害は最も死亡災害につながる危険が高い災害です。高所作業では手すり設置など墜落防止徹底と保護帽着用の徹底をお願いします。2 番目に多い転倒災害は、ケガをしてもかすり傷や打撲程度と考えがちですが、転倒災害の 6 割は骨折など休業 1 カ月以上の災害です。特に、12 月から 2 月までは、凍結や寒さ、暗くなるのが早い、年末で気ぜわしくなるなどで転倒災害が増加する傾向にあります。冬季は滑りやすい床や段差などの設備面の対策、健康や仕事の状況に応じた注意喚起など、転倒災害防止の積極的な取り組みをお願いします」と挨拶しました。

第１部の表彰式で、芳工連会員企業から協永堂印刷㈱栃木事業所様が一般社団法人真岡労働基準協会長から優良事業場表彰、関東大協㈱佐々木篤様が安全衛生功績者表彰を受けました。
また、優良従業員表彰で日本梱包運輸倉庫㈱から大野広一様、㈱本田技術研究所四輪 R&D センターから矢口博之様、小野寺浩一様、石原陽子様の３名が受賞されました。

おめでとうございました。これからも労働安全衛生の向上にご尽力いただき、ご活躍されるよう御祈念申し上げます。

また、自主的な安全衛生活動の充実・強化に最大限の努力を傾注すること。働き方改革の総合的な推進とともにリスクアセスメントを確実に実施するとした大会宣言が採択されました。

第２部の特別講演は、「職場の安心・安全をつくる“言葉の整理術”」と題して、プレゼンテーション・プランナーの山本衣奈子氏により、次のような講演がありました。

言わなくても分かるだろうでなく、自分が笑顔、あいさつのスターターにならなければいけない。キャッチボールで相手がとり易いボールを投げることが大切なことと同じである。自分が相手にどのように投げ、どのように伝えるかが重要。生き生きとした集団（会社、チーム）に共通するのは『笑顔、あいさつ』である。

相手に伝わるポイントは、選択肢を少なく、優先度の高い三つを繰り返す、渡す側が優先度を知っていることが大切と説明。笑顔は相手を安心させる効果が大きい。「ありがとう」の言葉の重要性を強調しました。

熱弁をふるった山本講師の話に、聴衆の多くが感心し、納得できたとの感想を耳にしました。

その後開催された情報交換会で、管内会員企業の皆さまと大変有意義な懇談ができました。芳工連河合会長が締めの挨拶を務め情報交換会は閉会となりました。

■ 団管連県外視察研修会参加

栃木県工業団地管理連絡協議会が主催する県外視察研修が１１月２１日と２２日開催され、事務局長七井が栃木県産業政策課職員や県内工業団地の事務局長とともに参加しました。

視察研修先は滋賀県南部、琵琶湖から２０㎞に位置する湖南工業団地です。

滋賀県内最大の規模を誇る湖南工業団地は、立地企業による諸課題に対応する組織として昭和 50 年に「社団法人湖南工業団地協議会」を設立し、工場排水の共同自主管理、地域環境保全活動、共同安全衛生活動を実施しています。

工場排水が、県民及び京都府民の飲料水として利用される琵琶湖に注ぐことから、「環境保全確保」が重要であり、全立地企業の工場排水を検査する共同監視体制を確立しています。

県条例を上回るレベルの水質基準確保のため、工業団地協会の下に県の環境計量事業所登録を得た「排水管理センター」を設置し、水質検査を担う専任職員を配置した上で、共同監視体制を確立していることは極めて特筆すべきことです。

同時に、工場排水と住宅生活排水が流れ込む一級河川の汚濁防止、河川流域の美化活動を地域自治会などと協同で推進するなど、環境保全活動について地域を取り込み幅広く実践していることは評価に値するものです。

また、工業団地立地企業の一つである株式会社ネオス様の工場見学を併せて実施しました。この会社は、切削研削材や洗浄剤など工業用化学薬品の製造販売、製造装置の精密洗浄などの分野で最先端ものづくり産業を支える会社です。

30 年前に国内で初めて、半導体製造装置の製造装置部品をメーカーから預かり、クリーンな状態に洗浄して納品する業務を開拓した会社です。洗浄、研磨処理、金属表面処理で必要となる特殊薬品の研究開発が重視される企業であり、排水処理についても極めて特殊な技術とノウハウの蓄積があります。危険な化学薬品を大量に使用する特殊な会社ですが、安全衛生はじめ排水処理などの環境対策についても高度な対応を行い、徹底した管理で安全を確保していることに驚きました。

湖南市が推進する民間開発の新規工業団地造成などの産業振興施策、湖南工業団地協議会の運営及び立地企業視察を通して、新たな発見や多くの気付きがあり有意義な視察研修会となりました。

芳工連日誌

【１１月の実績 】

２日　安全運転講習会
２日　県県土整備部長陳情
５日　第 36 回芳賀町民祭参加協力
１７日　全体研修会
２１日　初級管理者セミナー
21～22 日　団管連県外視察研修
２２日　資源ごみ回収日
２５日　第 55 回ゴルフ大会
３０日　芳賀町商工会との交流会

【１２月の予定 】

５日　安全活動事例発表会
１１日～３１日　交通安全県民総ぐるみ運動
１４日　第３回役員会
２７日　資源ごみ回収日
２８日　仕事納め